



Deborah  
& Eugene





Detonated Genes

2024-25































## 端書き

今年是个展に出す作品数を厳選しました。昨年度個展を終えたとき、来年は展示そのものをガラッと変えよう、具体的にはメインと言えるような大きい作品も作り、小作品は少数に留めよう…と考えたからです。そのための大きな羊毛筆も購入してから、チェコに帰りました。

それが人生にどう影響を及ぼすのか、不思議なものです。この一年半で、コラボ状況が様変わりしました。二年という短期間にあまりにも急激に詰め込んだGodzmekanoは維持できず空中分解し、その後別のコラボも試しましたがそれもうまくいきませんでした。一方、本来の自分のペースで続けてきた東田氏とののはるゆきコラボはさらに大きな時空へと、するりと航海に乗り出しました。半年弱でやっとそのスケール感にも慣れてきて、自分の作品レベルとしてはギリギリ及第点に來れたかな、個展三ヶ月前時点ではようやく去年思い描いていたビジョンに肉薄できたかな…という感じです。東田さんと私はもともと、大舞台に出ると燃えるタイプらしく、3倍ほどの時間の長さ・画面の大きさというスケール感にまだまだ苦心しながらも、見えてきた更なる表現の可能性を喜び、毎回とても楽しんでいます。

画材は安定してきました。自分のしたい表現と、それに必要な材料はほぼ瞬時に理解できるようになり、よりシビアに判定するようにもなりました。そして作品が大型化するに伴って、いよいよ水彩紙を、ついに…10mのロールで…買いました先日。ロール…、想像もしていなかった領域…。しかし、買ってみるとなんて便利な…。描いてて一番欲しい反応をくれる紙というのは実際、私にとっては最も重要な画材です。実際に描く画面サイズとしては、チェコで友人に作ってもらった水張り板の90x64cmで現状充分なのですが、慣れてくるともう一回り大きくなると思いますので、その際は床にテーブルで張って描こうかな、などと考えています。PVCの自宅の床にちゃんと張れるのか…、まあ、なんとかしましょう。

最近、子供用の音楽コラボ+インクペインティングのWSを、100号の日本画を連作展開している変…鬼才の恩師・松尾多英先生のところで偶にさせていただいてるのですが、先生とも「なぜ作品って、大型化していくのだろうね…」と話し合っていました。なんとなく、満足できなくなっていくんですね。

さて、来年はどうなっていくでしょうか。ともあれ、どんな時でもいつもコラボは、本当に楽しいものです。







## コラボという生き物

昨年までほど賑やかしませんが、経験から得た大切な学びを次へ繋げていくため、コラボレポートを今年も残しておきます。

自分は音を視覚化するために生まれてきたという部分があるのだな、とよく理解できた一年でした。幼少期から17歳まで毎日、音楽を身体表現するバレエを突き詰めて、その後絵画に移行して私が行ったことはやはり、音楽を身体(を使って)表現することなのでしょう。今年、物語シリーズとなるA SOUL HOMEの制作も大幅に進めましたが、そこにもお話を組み立てる取っ掛かり・始まりに特定の曲が存在したものが何編か存在しています。つまり、私が絵を描くということ自体が「音楽の視覚化」であり、身体表現であるらしいのです。全ての絵画が身体表現であるとは言えないと思うのですが(頭腦的、または図象的であるものがもっと多くあります)、私の絵はそうだと思います。身体的知覚や生物的直観は、常に私の絵画感覚の大きな部分を占めています。したがって、私の中では物語であろうとファインアートであろうとコラボであろうと抽象であろうと具象であろうと、身体感覚から生じており、その起点には常に何らかの「音」があるのです。

ちなみに「音」は、音楽とは限りません。私には、人の持つエネルギーがなんとなく色彩で見えたり、口に出せない思いが震動として伝わってくることがよくあります。そういったもの全般を、兆しやサインのような意味合いで「音」と呼んでいるのだと思います。「音がしたからそっちへ行った」という感じで、聴こえたら即座に反応し、表現を開始します。

それもあってか、コラボ相手はなにも人間だけではないと思うようになりました。このページの左にある絵は、雷雨の夜、外で鳴る雷を聴いて、ああ、あなたを描こう、と直接その音を聴きながら描いたものです。これは一種のセラビーだったようで、雷で多少なりとも感じる不安感が描くと不思議と落ち着き、自然の畏敬と向き合ったことで心の内側に厳かな静けさを感じました。私が即興コラボをする理由の原点はやはり「自然を表現する」が一番近く、その中に自然物の一つとして、人間の表現するものや表現者自身が含まれているのだと思います。コラボに伴った様々な変化も、私たちは自然物

ですから、当然変化し続けるのです。

こうした理由からも、来年頃、わたしの原点であるダンサーとのコラボをしたいと思い立ったことは、自然なことでした。私は今後、むしろ今後こそさらに、即興コラボというものが持つ巨大なポテンシャルを引き出せる表現者になろうと決めました。

「予想外の領域」を引きずり出せる確率は、即興ライブという緊張感と、コラボという共同創造者がいる状態が最も確率が高いものです。私は、それを視覚化したいという深く強い使命感を持って生まれてきました。人間の予測し得る狭く小さい範囲の外へ、深くへ、ルーツの奥底へ、根源へ辿り着きたい。私はこれをどこまでも追い続けようと、改めて決意しました。私はこの、即興コラボという化け物の背中を、絵で追い続けようと思います。

調和の中で自己表現することが、私がコラボの中でやっていることです。相手と自己との調和。その中に、時空の狭間につながる扉があって、そこから何が生まれ出でる。そういう行為。ここで生まれるその生命体、一種の赤ちゃんのようなものは、なぜかいつもとても感動的です。これを目撃する観客の方も、その感覚を覚えるそうです。私はその装置が、どのぐらいの巨大なものが産めるかを見てみたい。幸い、私の器の限界はまだまだずっと先にあると感じます。コラボのたびに生まれる「何か」は、私を選んだのだと思います。私は母体で、インスピレーションを共に抱ける相手を探し、その空間で演者と観客一丸となって育む。やがて、それが空間に出現する…。それを全員で目撃すること、それを即興コラボと呼んでいるのです。私は音頭取りにすぎません。そこにいるすべての人たちと共に、この「何か」は生まれるのです。ライブの後、お客さんたちと一緒にできた絵を囲んで話しているときにいつも感じる不思議な一体感と、誕生を祝うような感覚は、おそらくこれなのではないでしょうか。

私が即興コラボライブをすることで観客のみなさんと分かち合いたいものは、この感覚なのです。「生命は生まれる。それは当たり前じゃない。神秘的な奇跡の瞬間なのだ」ということを。そして、私たち自身の命もまた、只ここにある、それだけでどれほど美しいのかということ。私はただ、表現し続け、伝えつづけたいのです。





Impro collab works  
in 2024-25

P2-10, 16 w/ Haruna Higashida, p12-13, 17 w/ 巨火 (Giant Fire) by Minoru Miki, p11 w/ inoriman,  
p14-15 w/ Yushi Iwata, p18 w/ thunder (nature), p20 w/ piano songs by Thom Yorke

YUKIKO TAIMA  
Improvised Paintings  
with Music

Yukiko Taima is a painter and illustrator born in Japan and now based in Prague. She holds a Master of Arts degree from Tama Art University (2005) and a Master of Arts degree from the Academy of Arts, Architecture and Design in Prague (2015), majoring in illustration and graphics.  
Created through improvisational collaborations with music, her ink paintings are like a dance on paper. Born from a state of self-forgetfulness, her expressive ink paintings reveal the organic structures that are common to all life forms, from the universe to the Earth. These purified abstractions allow the audience to reflect and dream intuitively. She has been collaborating with musicians for 25 years, producing more than 100 paintings to date.  
\*If you are a musician interested in improvising with her, please get in touch! Any instruments are welcome.

Info

instagram @yukikotaima | X @jukiko08  
whole info: akacoa.jp | A Soul Home series: Xfolio @akacoa

Detonated Genes

2025年12月1日 発行  
発行者：當麻 ユキコ  
akacoa.jp  
akacoa@gmail.com  
印刷所：株式会社グラビティ



